

種名	<u>ヒメアメンボ</u> <u>Gerris latiabdominis</u> 
分類	昆虫綱カメムシ亜目 アメンボ科
俗称	和名は、成熟した雄の朱紅色の体色を猩々(しょうじょう)色に見立てたことによる。
形態的な特徴	アメンボに似ているが本種の方が明らかに一回り小さく、尾端の突起はアメンボほど大きくない。ほとんどの個体が腹部より翅の長い長翅型だが、まれにごく翅の短い微翅型が現れる。
分布	北海道、本州、四国、九州に分布する。
繁殖行動	春から初夏の頃にかけて交尾のため「おんぶ」をした状態のアメンボをみることが多くなる。卵は水中の水草などの表面に産み付けられ、二週間ほどでふ化する。幼虫は成虫と同じように水面で生活し、五回ほど脱皮を繰り返し成虫になる。
生息場所	ヨシなどの挺水植物が生えた池沼や水溜まり、湿地、水田、小さな流れなどによく見られ、周囲の開けた水面を好む。生息環境は広く比較的普通にみられるが、コンクリートで護岸されたような水生植物のない水域には生息しない。
食性	幼虫、成虫とも水面に落ちてきた昆虫などの体液を吸うが、積極的に襲って食べるようなことはない。
生息環境への配慮事項	多くの水辺に生息するが、減少傾向にある。生活排水による水質の汚濁や水域の周囲の環境も生息には重要であり、水際の植物帯は不意の波風などの緊急の避難場所として利用されているほか、餌の供給源であったり、飛ぶことのできない幼虫の安全な避難場所となるため、これらの環境も必要になる。
引用文献：http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html	